

# 自然遊学館だより



JAPAN MUSEUM

登録博物館

2025.4

Vol.113



然くは園で館市  
遊気離の多わ民  
学軽れ生くく協  
館にた物くのわ働  
へ参地調方クで  
加域查がラ毎月  
できも保参加(施  
ます調査全加(年  
すに活され(し  
詳い動ては、い  
細き夏一桁す、  
はます季す、  
貝休業自、自然  
塚会業中80遊  
市費自然生代  
立中費然生遊  
自も中費然生遊  
立も中費然生遊  
自も中費然生遊



自然遊学館を拠点に調査研究をされている市民の方(小中学生から大人まで)8名の調査報告会が当館2階で行われました。

## 4月5月6月の行事案内

4月	2日	(水)	ミニ企画展「生きものの美しい形や色彩について」6/15まで
4月	20日	(日)	自然生態園作業と生物調べ(時間等電話で確認ください 申込不要)
4月	26日	(土)	天王寺動物園「生物多様性展」(4/11~30)でのワークショップ
5月	10日	(土)	新緑のブナ林観察 (Expo 2025 共創チャレンジ)
5月	11日	(日)	自然生態園作業と生物調べ(時間等電話で確認ください 申込不要)
5月	17日	(土)	大阪・関西万博会場での日本紙工株式会社とのコラボ・ワークショップ
5月	25日	(日)	渚の生きもの(近木川河口)兼国交省大阪湾生物一斉調査(Expo 2025 共創チャレンジ)
6月	8日	(日)	自然生態園作業と生物調べ(時間等電話で確認ください 申込不要)
6月	8日	(日)	世界海洋デー 海辺の昆虫を調べてみよう!
6月	14日	(土)	二色の浜稚魚放流(大阪府栽培漁業センター共催)(Expo 2025 共創チャレンジ)

メールで申込の際は、住所(市町村名まで、番地以下は不要)参加される方の全員のお名前・年齢をご記入いただき、shizen.desk@icloud.com (このページの下メールアドレスのQRコードがあります)までお願いします。抽選による参加の可否につきましては、締め切り後の抽選の結果を代表の方にお知らせします。

Instagram



YouTube



行事申込メール



Facebook



ホームページ



貝塚市立自然遊学館  
Kaizuka City Museum of Natural History

貝塚市立自然遊学館 (登録博物館)  
〒597-0091  
大阪府貝塚市二色3丁目26-1  
TEL:072-431-8457



### ヨコヤマヒゲナガカミキリ

*Dolichoprosopus yokoyamai* (Gressitt, 1937)

ブナ林に生息し、幼虫はブナの生木を食樹とします。ブナ林のカミキリムシを代表する種で、ブナ林の環境が悪化すれば激減します。

京都府(絶滅危惧種)、奈良県(注目種)、和歌山県(準絶滅危惧)など

カミキリムシと言えば、クビアカツヤカミキリやゴマダラカミキリ等モモ、ウメ、ミカン他の害虫として知られ対策がとられています。2025年3月20日開催の自然遊学館調査報告会で佐々木 仁氏(貝塚市)より、「和泉葛城山国の天然記念物ブナ林及びその周辺のカミキリムシ」が報告されましたので、それを紹介します。ここで紹介している種は、クビアカツヤカミキリ、ゴマダラカミキリとは異なり、周りの自然に溶け込みながら生息するもので、大阪府他のレッドリストに掲載されているものなどです。(P.1-2 佐々木仁氏撮影)

和泉葛城山に生きるカミキリムシ

セダカコブヤハズカミキリ

*Parechthistatus (Parechistatus) gibber gibber* (Bates, 1873)

大阪府レッドリスト 準絶滅危惧

後ろばねが退化して飛ぶことができません。前ばねは堅く盛り上がっています。



ミドリカミキリ *Chloridolum (Leontium) viride* (Thomson, 1864)

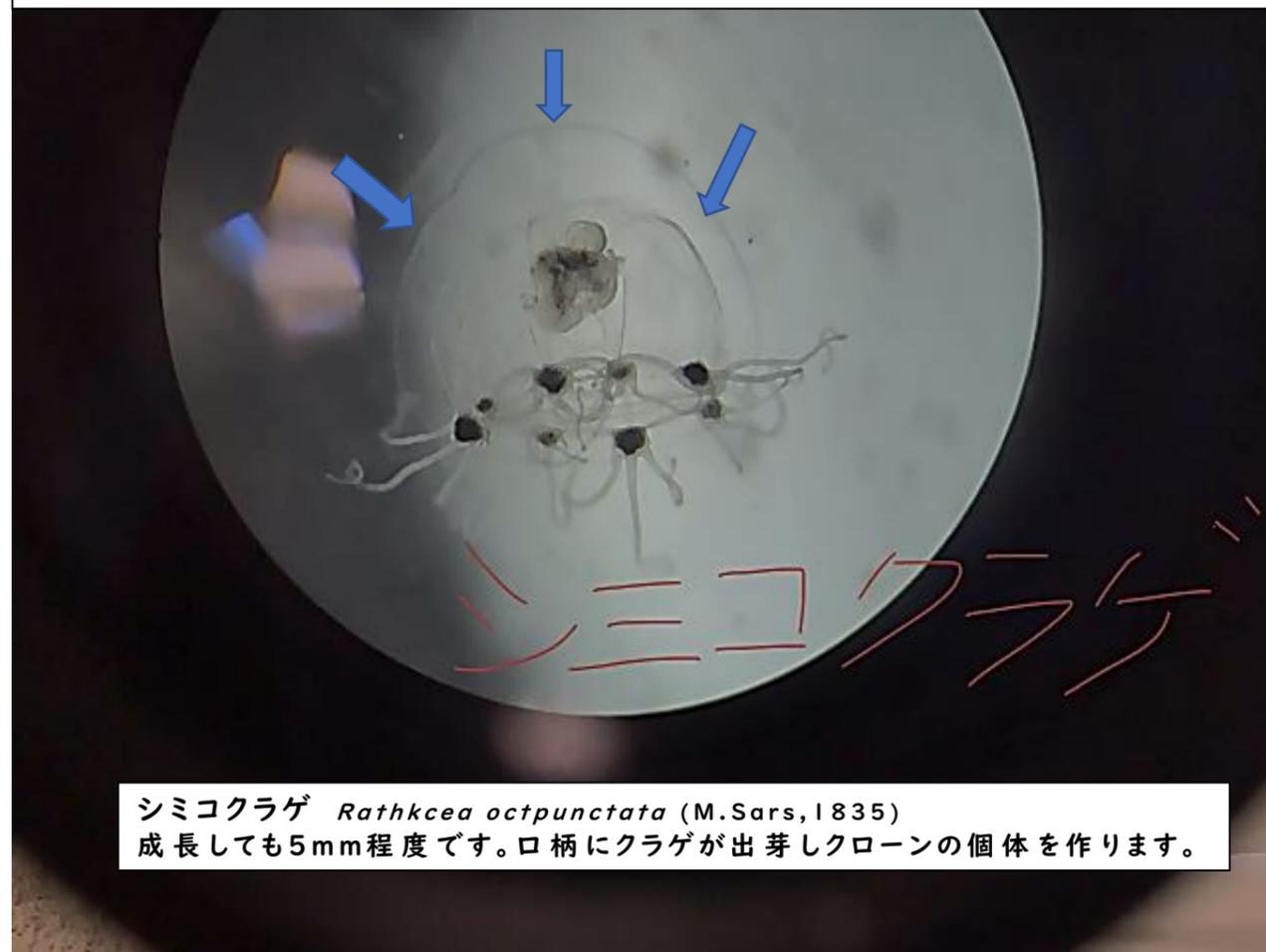
金属色の光沢で、名前の通り緑を基調にオレンジ、黄、赤に青っぽい等いろいろな色のものが見られます。



出前講座 「プランクトンネットで取ったプランクトンを観察しよう」

津田小学校 6年生

貝塚市の津田小学校 6年のみなさんのプランクトン観察会で、プランクトンネットを使って二色の浜の突堤でプランクトン採取をしました。各自手持ちのiPadで写真を撮り記録しました。 ※傘の部分が見えにくいので周囲を↓(矢印)で示しています。



シミコクラゲ *Rathkcea octpunctata* (M.Sars, 1835)  
成長しても5mm程度です。口柄にクラゲが出芽しクロンの個体を作ります。

自然生態園にまたもや冬尺蛾が飛来



自然生態園にまたもや冬尺蛾が飛来

2025年2月16日、市民の森内にある自然生態園でクロテンフユシャクのオスが見つかりました。冬の昆虫の代名詞でもある冬尺のメスは夜空を羽ばたける翅(小さく退化)をもっていない。どのようにしてオスと出会うのかといえば、メスが腹部の先からフェロモンを放出する“コーリング”という行動で、オスが飛んでくるのを待っているのです。2022年及び2023年2月にシロフユエダシャクのオスにつづく2種目となります。クロテンフユシャクは1996年3月に貝塚市の大川で、やはりオスが採集されています。飛ばないメスはやはり見つけるのが大変です。

しかし、この埋め立ての地にどのようにして分布を広げてくるのか、不思議でなりません。そのためには、飛翔できるオスだけでなく、飛ばないメスを見つめる必要があります。